

# Book Reviews

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-09-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/00055353">http://hdl.handle.net/2297/00055353</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## 新刊紹介

○ 福井県植物研究会（編著）：福井県植物図鑑④ 福井のシダと海藻 A5判，オールカラー，255頁，2000年3月，福井県植物研究会，2,300円。

福井県植物図鑑として計画された第4冊目として「福井のシダと海藻」が出版された。福井県に産するシダ類，緑藻類，褐藻類，紅藻類が写真で示され，生育環境や分布などが簡単に解説されている。シダ植物は富山大学教授鳴橋直弘氏，海藻は東京水産大学教授田中次郎氏の監修である。

シダ植物は生育の全形と同定に必要な部分の拡大写真が要領よく添えられていて，補助的な解説の簡単な説明を補っている。部分的な要部の拡大写真の配置は，平凡社から出版されている日本の野生植物シダよりすぐれていて適確に同定の役に立つと思う。

海藻も解説は簡単であるが，野生状態と標本の写真は今まで国内で出版されたとの図鑑よりもすばらしい。しかも福井県産だけがまとめてあるので，日本海側の海岸近くに生育する海藻類の同定には大いに役立つことと思う。

一般書店に並ばない県の出版物として入手の難点はあるが，希望者は福井県植物研究会 若杉孝生氏（〒910-0006 福井市中央2-8-27 TEL 0776-26-0220）にお問い合わせください。

最近各地で出版されている写真を用いた地方の図鑑類の中では異色のすぐれた内容をもっているのでぜひ一読をおすすめしたい本である。（村田 源）

○ Mittermeier, R.A., Myers, N. and Mittermeier, C.G.: **Hotspots—Earth's biologically richest and most endangered terrestrial ecoregions** A3変型，431pp. 1999. Agrupacion Sierra Madre, S.C., Mexico City.

このほどアメリカから35.5 cm×29.5 cmの上記大型本が送られてきた。表題からも想像できるように世界の生物多様性の中心地あるいは自然保護重点地域の紹介である。以前にWWFおよびIUCNからCentres of plant diversity (1994, 1995) という3冊本が出版されているが，この本はこれに似たスタイルでどちらかといえば絶滅危惧動物に重点がおかれていること，選ばれたスポットは広域の25箇所に絞っていること，見開きおよび1頁大の見事なカラー写真が巻頭に7枚，スポットごとに数枚ずつ収められていることなどが特徴である。はじめにHotspots and global biodiversity conservationと題した総論部分があり，後半はTropical AndesからSouthwest Australiaに至る25ホットスポットの記述に当てられている。日本列島はどのホットスポットにも含まれていないので，グローバルな視点からすれば，まだ，それほど深刻ではないということだろう。日本に最も近接するホットスポットはSouth-Central Chinaである。ここでは旗印種(Flagship Species)として当然ジャイアントパンダが登場するほか，高等植物では特に横断山脈を中心に約12,000種が自生し，そのうちの約20属3,500種(29.2%)が固有であること，*Rhododendron*, *Primula*, *Corydalis*, *Anaphalis*, *Delphinium*, *Gentiana*, *Saussurea*, *Sorbus* は世界の種の1/4以上，*Ligularia*, *Cremanthodium*, *Cotoneaster*, *Pedicularis* は1/2以上の種を産すること，*Circaeasteraceae*と*Acanthochlamydeaceae*の二つの固有科があることなどが紹介されている。総論には53個の表があり，なかでも表3-53は各種データのスポット間の比較となっていて資料価値は高い。（清水建美）

○ 東京農業大学短期大学部生活科学研究所（編）：桜さくらサクラ100の素顔 B6判，145頁，2000年11月25日，東京農業大学出版会，1,600円（税別）。

東京農業大学短期大学部50周年記念事業の一つとして，本書は刊行され，短期大学部のみならず，東京農業大学の教職員も参加して書かれたという。

日本では花と言えばサクラを指す。それほど国民に親しまれている植物もないだろう。そのサクラについて100のテーマでそれぞれ1頁か2頁でまとめているのが本書である。

さくらの名のつく清酒銘柄(102の清酒の銘柄があり，植物名では菊，松について3位である)，サクラの花の色(紅，黄，黒，紫，緑色などがある)，レンタルの桜並木(江戸時代に桜並木のレンタルがあった)，桜の関連食品(桜を使った食品として，桜餅，桜茶をはじめ95の食品がある)，シダレザクラの謎(サクラの枝垂れ性はメンデルの遺伝法則にしたがう単一劣性遺伝子による)，桜のポリネーター(川崎市のヤマザクラではポリネーターは，ニホンミツバチ，コマルハナバチ，メジロ，ヒヨドリであった)等のテーマは，筆者には興味がそそられた。桜に関心のある人にはうってつけの本である。ただ，文学，美術，歴史等の分野からの話題がほとんどないのは，出版元の大学の性格上仕方ないことであろう。（鳴橋直弘）

○ 石沢 進 (編) : 新潟県植物分布図集 第20集 A4判, 110頁, 2000年12月22日, 植物同好じねんじょ会, 4,000円。

本書は池上義信氏監修の新潟県の植物の分布図集であり, 今まで19集が刊行されている。

この集には, エゾノヒメクラマゴケ, ミヤマワラビをはじめ25種の植物の新潟県内での地理的分布と垂直分布が示されている。また, 作図するための基になった標本の産地が正確に記されている。ヤマグルマがどうして苗場山近辺にはないのだろうか。クサボケはこんなに少ないのだろうか。アキノタムラソウはどうして佐渡だけにしかないのだろうか。ノカンゾウは県中北部にしかないのはどうしてだろうか。この分布図集を見ただけでもこうした好奇心が湧いてくる。

本書はこのシリーズの第4期で, これで一応このシリーズは完了とのこと。これまでに取り上げられなかった植物は, 分類や同定の困難なものや, 一度だけしか採集されなかった希少なものが残っているものと思われる。

この分布図集の特徴は, なんとと言っても豊富なデータと正確な分布図である。第1集は1980年であるから足掛け20年になる。ここまで作ってこられたじねんじょ会の皆さんの永年の努力には頭が下がる。植物を取り巻く環境が変わりつつある今日, これらの分布図集の価値は今後増々高まるものと思われる。今のうちに全集揃えて図書館に入れるか, 個人で所持することを勧めたい。

これまでに発行されている分布図集のうち, 第1, 2集は残念ながら品切れであるが, 第3集から第19集までは残部があるという。それぞれの集によって金額が違うので, 購入希望者は, 植物同好じねんじょ会 (〒947-0003 新潟県小谷市稗生甲1429-2 関 省吾方) に問い合わせること。 (鳴橋直弘)

○ 石川の植栽樹種検討委員会 (編) : 石川の植栽樹種100選 A4判, 141頁, 2001年3月31日, 石川の森づくり推進協会。

著者は古池 博, 井幡清生, 長谷川義法, 高尾義臣の各氏である。本書は, 第1章 植栽樹種選定のあり方, 第2章 植栽樹種100選, 第3章 森づくりの方法と苗木の育て方, 第4章 造林, 植栽上の基礎知識, 付録1 石川県の植物地理区分と植生区分, 付録2 樹木の方言, 付録3 市町村の木, 市町村の花, 及び補遺 気候変動と樹種選定からなっている。選ばれた100種についてそれぞれ1頁があてられ, 植物全体と花や果実などのカラー写真があり, その植物の分布, 形態, 県内の分布, 用途の項目についてそれぞれ書かれている。また, タネによる育苗方法かさし木による育苗方法, または, 両方で行われる種では両方のやり方が表になって付記されている。表中の育種の要点は特に為になる。

従来, 住んでいる土地の環境に適した樹種を植え, その土地と結びついた森や庭木であったが, 現在は街路樹や公園樹, 庭木などに外国産の樹種や, 日本産でも違う地域の樹種が植えられることが多く, 我々の身の回りの緑に大きな変化がおこっている。そんな時, どういう樹種を植えて森を造って行くのかを考え, 石川県の答えを模索したのがこの本である。

購入希望者は, 石川の森づくり推進協会 (〒921-8025 金沢市増泉4-10-35 石川県林業会館 TEL 076-243-0059 FAX 076-243-0069) へ申込みれば, 1冊2,500円で頒けてくれる。 (鳴橋直弘)

○ 浜島繁隆・土山ふみ・近藤繁生・益田芳樹 (編著) : ため池の自然 生き物たちと風景 A5変型判, 231頁, 2001年4月25日, 信山社サイテック, 2,500円 (税別)。

本書は, 第1章 ため池の概観, 第2章 ため池の水環境, 第3章 ため池の生き物からなっており, 身近な自然の一つであるため池とそれをとりまく水田, 水路を生活の場とする多様な生き物とそれを育む環境について, 専門家だけではなく多くの人達にも調査や観察に加わってもらうためのガイドブックとして編集されたという。

執筆者は18人で, 植物, 淡水海綿類, 淡水貝類, 昆虫類, クモ類, 淡水苔虫類, 魚類, カメ類, 鳥類など多岐にわたっている。内容は専門的で, 特に輪藻類は今までのこの種の本には見られないほど詳しく解説されている。また, さらに研究したい人のために, 引用・参考文献がそれぞれの項目の後にあり, 有益である。

名古屋市内のため池は1965年には360ヶ所あったが, 1999年には121ヶ所となったという。これは66%の減少という。一般に都市化が進むと残った池でもコンクリートで縁が固められたり, 汚水が流入したり, また, 人による維持管理がなされなくなったために以前とは全く異なった状態にあるという。ため池に生活していた生物相は今や大きく変化している。後世に残す貴重なため池の自然保全のためにこの本は大いに役に立つ。 (鳴橋直弘)